

# 「これからの社会保障」

3月5日 報告者 宮古 智恵子

## 社会保障とは

### 今までの社会保障

「インフォーマルな社会保障」 《見えない社会保障》

- ・ 社会保障給付費の水準の低さ（中でも「失業」関連の給付、「子育て」支援関係の給付の比重が国際的に見て非常に小さい）

現在では・・・

「カイシャ」 雇用の流動化、就業形態の多様化

「核家族」 女性の社会進出や家族の個人単位化



「コミュニティ」としての実質を失いつつある

### インフォーマルな社会保障の希薄化

### これからにおける社会保障

個人のライフスタイルを座標軸とする社会保障」

高齢者と子供については『税』を中心とし、大人（現役世代）については『（社会）保険』を中心とした社会保障の体系とする。

「医療・福祉重点型」社会保障への再編

## 社会保障の財源の調達

- ・『消費税 → 相続税 → 環境税』（社会保障との関係の深さから財源として考えられるべき優先順位）

## まとめ

社会保障制度が確立した第二次世界大戦後は、急速な工業化や都市化、核家族化など日本の経済成長の中で伝統的な家族や地域社会による相互扶助の機能が低下していた時代であった。そうであったからこそ、国民生活の安定を支える社会的な安全装置として、不可欠のものとなっていった。しかし、1980 年代 1990 年代に入り少子高齢化の傾向は加速し、経済成長の鈍化による不況、家族形態の変化、などにより社会保障制度を維持するための負担が増加することを避けられなくなった。とはいえ、社会保障精度は 21 世紀も持続させていかなければならないものであり、私たちの将来にわたり、安定した効率的なものになるよう私たちも積極的に関わって行くべきだと思う。

## 論点

社会保険方式と比較して、基礎年金を全額税によってまかなう場合の問題点